

四日市市立三重小学校

校長 田中 重行

1 コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

- ①従来から笑顔をキーワードとして、学校・保護者・地域が協働して取り組んできたことを継続・発展させます。
- ②保護者や地域の声を反映した教育活動を進めるとともに、学校とともに子どもを育てる中心的な役割を果たします。

2 コミュニティスクール（運営協議会）の実践について

(1) 教育活動の実践事例

コミュニティスクールの指定を受け、地域の教育力を活かした活動を行ってきました。職員の意識も向上し、各学年とも地域と協働した実践を積み重ねてきました。その活動内容を年間2回の拡大委員会で、各学年から報告しました。

★1年生 登下校支援と「つながりを大切に」幼稚園や長寿会との連携授業

遠くから通学する子どもたちの登下校の見守りや、1年生だけで下校する日の見守りを地域の方にお世話になっています。生活科では、三重幼稚園の子たちと一緒にぶんぶんごまの活動をしたり、昔遊びでは、長寿会からボランティアとして15名の方と遊びを楽しみました。交流を行う中で、1年生の子どもたちが成長してきた様子が見られました。また、毎年7月が近づくと、地域の方に頼んで竹を持ってきて頂き、子どもたちが七夕飾りを作る体験活動が自然にできています。



★2年生 生活科「発見！町へとび出そう」「三重っ子郵便局」

「発見！町へとび出そう」の地域探検では、近くの交番まで出かけました。交番では、「いかのおすし」の言葉から、自分たちの命は自分で守る、「たすけて」と声を出すことを教えていただきました。神社では、実際に社殿の中まで見るのは初めての子もおり、興味深くお話を聞いていました。「三重っ子郵便局」では地区の郵便局に出かけ、実際に家族へ手紙を出すことで家庭との協働を進めました。

生活科の「野菜を育てよう」の単元でサツマイモの調理に保護者の方もたくさん応援にきていただき、ふかしイモをつくりました。



★3年生 社会科・総合：「三重のまちを知ろう」

東坂部の「火の見やぐら」、「そろばん塾」、「西光寺」、生桑町の町並みを見学し、一人一人が校区の地図にまとめました。また、地域の三重地区郷土資料館に出かけ、昔の道具を見たり触ったりし、昔の人の生活に触れました。「三重小学校」の額も保存されており、自分たちの学校は、100年以上歴史のあることを実感できたようです。

毎年の体験活動として定着してきた三重地区にみえる伝統産業である萬古焼の陶芸家から、四日市の伝統産業であることを伝えてもらい、自分たちも本格的に陶芸体験をしました。



★4年生 社会：「地域の防災」、図書ボランティアによる本選び、「地域の方とグラウンドゴルフをしよう」

地域の方や保護者の方から、災害が起こった時に大切にしなければならない事について、教えていただきました。子どもたちが、通学路で危険なところを調べ、地区ごとに安全マップを作成しました。子どもたちの目から見た危険な箇所を見つけ、地図にまとめました。できた地図を地区ごとに発表し、みんなで危険箇所について考えました。また、1日に必要な水分量や非常食についても体験を通して心に刻むことができました。



図書ボランティアの方が中心となり、4年生のみんなに読書の面白さに気付いてもらおうと、読書講演会を実施しました。その後に、子どもたち一人一人が、自分で読みたい本、図書室に置いてほしいを1冊ずつ選びました。自分の選んだ本が図書室に並ぶのを楽しみにしていました。



3学期には、長寿会（地域のお年寄り）の方にお世話になり、グラウンドゴルフを一緒にふれあう活動をしました。

★5年生 社会科・総合「めざせ！米作りはかせ」

数年前から、地域の田んぼをお借りして、米づくりの学習をしています。生桑の専業農家やJAの方から、お米が食糧として素晴らしい点やこれからの農家の夢についてお話を聴きました。また、トラクターによる田おこしや田植え、稲刈りなども経験し、関心を高めながら、子ども達の活動意欲を大切に学習に取り組みました。子どもたちも手作業で、5月に田植え、9月に稲刈りを体験しました。さらに収穫した稲を保管しておき、地区の方からご紹介頂いた講師の方に来て頂き、しめ縄作りを体験しました。農家の方と同じように収穫物は全て大切に、利用する思いを持つことができました。3学期には、収穫したお米を使って五平餅を作りました。



★6年 総合的な学習 「防災 土鍋体験」

「平和について考えよう」

社会科の歴史学習の中で何度も繰り返される戦争について学びました。その戦争では、この三重地区からも多くの方が出兵し亡くなっていたことを知りました。そこで、三重地区に住んでいる方に戦争体験についてお話を聴かせていただき、「この戦争の悲惨さを次の世代に伝え、二度と戦争を起こさないようにしていくのは自分たちだ。」という思いをもつことができました。



(2) コミュニティスクール（運営協議会）の取組による効果

年間5回のコミュニティスクール運営協議会（内、拡大委員会2回）を開催し、さまざまな視点からの意見をいただき、教育活動を見直すことができました。

前述の実践は、「みえ委員会」へ各学年からも職員が参加し拡大委員会として教育活動を委員へ直接伝えることで、実際の子どもたちの取り組みの様子を理解していただきました。委員からは、4年生の「地域防災について」活動で、子どもたちから出た危険な箇所を記した「防災マップ」について、自治会にも情報発信してほしいとの声や、子どもが自ら通学路について考えるところがよいとの評価を頂きました。「飛び出しぼうや」の場所についても、補導委員会の方とも連携できるので、必要な場所なども交流できればとの意見を頂きました。また、「みえ委員会」の場で生まれた「長寿会の方々との交流活動」は、今年度も1・4年生で継続して活動することができました。

「みえ委員会」を活用することで、地域と教職員の距離が近くなり、お互い無理をせず地域との交流の場を広めていくことができていると思います。委員会の協議も、子ども達の授業の様子等の実態を見たうえで、教育活動や学力向上について、いろいろな立場からのご意見をいただくことができました。

土曜日を活用した教育活動では、昨年度に引き続き1月にゲストティーチャーとして地域の方をはじめ約50名お招きし、一緒に活動することができました。子どもたちも、「その人自身」から多くのことを感じ、地域に住んでいるお年寄りの方と交流する中で、より豊かな人間性を育むことができました。地域の方からも、学校を身近に感じることができ、「子供たちから元気をもらった」と感想をいただきました。

3 今後に向けて

「学校・子どもを支える応援団」という形で、「みえ委員会」で教職員との意見交流をさらに深め、学校の実態をより理解していただき教育活動をバランスよく支えてもらえる話し合いを続けたいと思います。そして、学校だよりやホームページ等で情報発信をし、地域や家庭の皆様の理解を得ながら本校の教育活動を支えて頂きたいと思います。

別紙B

令和元年度四日市版コミュニティスクール活動報告

四日市市立三重小学校

委員長 藤澤 和実

校長 田中 重行

月	協議会の開催	活 動 内 容
4		
5	第1回みえ委員会	<ul style="list-style-type: none">・委員の委嘱・会則・学校づくりビジョンについて・年間活動計画について
6		
7	第2回みえ委員会 (拡大委員会)	<ul style="list-style-type: none">・授業参観・1学期の取り組みについて・今年度の活動について
8		
9	第3回みえ委員会	<ul style="list-style-type: none">・授業参観・今後の予定について・給食について
10		
11		
12	第4回みえ委員会 (拡大委員会)	<ul style="list-style-type: none">・授業参観・学校評価アンケートについて・2学期の反省
1		
2	第5回みえ委員会	<ul style="list-style-type: none">・学校評価委の結果（総括）・関係者評価について・来年度の方向性について
3		